

「第Ⅳ期基本計画のフォローアップ審議の充実に向けて」に関する意見等について

※ 本資料は、本件について事前に各委員に対して行った意見照会の結果を取りまとめたものである。
 (下線については、事務局で付記している。)

委員名 (敬称略)	意見等の内容
伊藤 恵子	<p>統計データ利用者にアンケートに答えてもらうというようなことはできないでしょうか？</p> <p>e-stat の使い勝手には改善の余地が大きいと思っています。たとえば、日本の e-stat は、紙ベースの各統計調査報告書の表の csv ファイルをダウンロードできるというタイプで、「データベース」にはなっていないところが、データ分析をするために統計データを使う側からすると非常に使い勝手が悪いと感じます。e-stat のサイトの発想自体がデジタル対応になっていないというか、いつまでも冊子体を中心にあって、その電子版をダウンロードするという発想から抜け出せないために、データサイエンスには使い勝手が悪いシステムだと思います。</p> <p><u>普段、統計データを定期的に利用しているシンクタンクのアナリストや研究教育機関の研究者にアンケートに答えてもらい、改善すべき点を洗い出したり、改善されたと評価される点を拾うことができる</u>とよいのではないかと思います。</p> <p>外部の人の意見を集めるのであれば、各府省が指標の作成・報告のために割く労力を節約できるとも思います。</p> <p>たとえば、ハーバード大学の Harvard Dataverse というサイトからはさまざまなデータを無料ダウンロードできるのですが、ダウンロードする際には、ポップアップ画面が出てきて、そこに氏名・所属・メールアドレスを記入する必要があり、さらに、「どうしたらデータがより利用しやすくなるか、提案はありますか？」といったような質問に解答する欄があります。この質問に回答するかどうかは任意ですが、ダウンロードのたびにこの質問が出てくるので、何か気づいたことがある人は回答すると思います。</p> <p>政府統計をダウンロードする際に、いちいち氏名やメールアドレスを要求するわけにはいかないと思いますが、たとえば時々ランダムにアンケート依頼を出すようなことができれば、統計データ利用者からの声のある程度集めることができるのではないかと思います。</p>

	<p>また、オンサイト施設の利用者や、政府統計の目的外利用申請をする人たちなどは、こういうアンケートにも比較的積極的に回答してくれるのではないかと思います。</p> <p>ご提案されている指標のように、「数」で測るものもあってよいと思いますが、<u>「数」だけではなかなか評価は難しいので、質的な向上を評価するという意味でも、利用者からの声を集めて蓄積していくのが有効か</u>と思います。</p> <p>たとえば、改善すべき点、以前と比べて改善されたと思う点、諸外国や民間のデータベース等と比較してどうか、など、直接利用者に聞くというのも、一つの方法として検討してもいいのではないかと思います。</p>
川崎 茂	<p><u>基本計画の進捗状況を把握するために、数値化・指標化した情報を見ることには一定の意味があるとは思いますが、それに過度に依存することは避けるべきだ</u>と思います。</p> <p>計画に含まれる各項目には、その成果を質的に評価する必要があるものが多くあり、数値化が難しい場合が多く見られると思います。そのような状況で無理に数値化すると、状況を見誤るリスクがかなりあることを十分認識して、数値・指標をみるべきだと思います。</p> <p>例えば、ごく簡単な例として e-Stat のアクセス件数について考えてみます。</p> <p>自分が探している統計表があるかどうか、何度もサイトにアクセスすると、仮に必要な統計表にたどりつけなくても、アクセス件数は増えます。</p> <p>他方、1回のアクセスで必要な統計表にたどり着くことができれば、アクセス件数は減ります。</p> <p>アクセス件数という、利用者の行動を極めて単純に測れる指標でさえ、このような課題を含んでいることに十分留意が必要です。</p> <p>このような中では、<u>指標値が大きく変化しなかった場合であっても、利用状況が変化していることは大いにありうると思われ</u>ます。</p> <p><u>このようなことを考えると、成果を数値指標だけで把握することや、指標の変化だけに注目して評価することが適切とは必ずしも言えない</u>と思います。</p> <p>数値指標により成果を把握することは、既存のデータだけでは難しい場合も多々あります。</p> <p>もし数値指標で評価するのであれば、計画の段階で指標の計測方法も決めておき、実施の過程でそのデータを計測・把握していくことが望ましいと思います。</p> <p>しかし、それには一定の作業コストがかかることにも留意が必要で</p>

	<p>す。</p> <p>すでに基本計画が決定され、実施に移されている今の段階で、さかのぼって新たな指標を設けることについては慎重に考えるべきと思います。</p> <p><u>数値・指標により把握することがある程度可能な実施項目については、数値だけではなく、その数値の意味や見方を吟味することが必要であると思います。</u></p> <p>例えば、オンサイト利用の件数などをみる場合では、どのような利用内容なのか、利用内容や成果を1件ずつ、あるいは主な事例について、簡単な言葉で説明してもらった方がよいと思います。</p> <p>また、逆に、指標が大きく変化しなかった場合でも、内容面・質的な面で変化があったケースもあるでしょうから、そのことをきちんと表現することが大事だと思います。</p> <p>蛇足ながら、統計の改善・発展を数値化して測ろうとすることは、子供の成長や能力の向上などを数値だけで測ろうとすることに似ているような気がします。</p> <p><u>統計の改善・発達を観察するには、人間の成長や能力向上はすべてを点数化できないのと同様、点数化・指標化は容易ではないと思います</u></p> <p><u>私は、数値指標を用いて評価することを否定するものではありませんが、基本計画の実施項目に関する評価は、かなりの部分が質的なものであると思います。</u></p> <p>「達成できた」と言っても、予想以上に上手に達成できて大きな成果が上がった場合もあれば、合格ラインすれすれの場合もありうると思います。</p> <p>達成度の評価を効率的・効果的に行いたいという気持ちは私も持っていますが、過度に指標に頼ることについては、ぜひ慎重に考えていただきたいと思います。</p>
白塚 重典	<p><u>全体的な話として、定量的な指標だけではなく、定性的に中身がわかるようなものを含めて、指標についての背後にあるクオリティがわかるような、工夫ができるとよいのではないかと。</u></p> <p>4ページの関連指標の箇所について、③のその他は、オンサイトの利用状況もよいと思いますが、このほか、<u>個票データの開示までの期間短期化の状況なども定量的な情報として提供できるとよいのではないかと</u>思います。</p>
福田 慎一	<p>e-Stat については、アクセス件数も重要かと思うが、使いにくいからたくさんアクセスしているようなこともあるのではないかと。</p> <p>そのため、<u>使っている人の、使いやすさに関する指標などもあればよい</u>かと思うので、検討いただけるとありがたい。</p>